富士見市・セルビア

友好記念展

ドブロドシュリ
Dobrodošli
（ようこそ）

2018年5月25日(金)～6月10日(日)

富士見市立難波田城資料館

はじめに

今から5年前、2013年6月にセルビア共和国大使が、当館を来訪されました。これは、同国のシャバツ市と富士見市が姉妹都市だという縁によります。本年の難波田城公園まつりにも、大使をご招待しています。

これらを記念し、両国・両市の友好のあゆみをささやかながらご紹介します。

なお、市立中央図書館でも関連する展示を開催しています(5月25日～6月10日)。

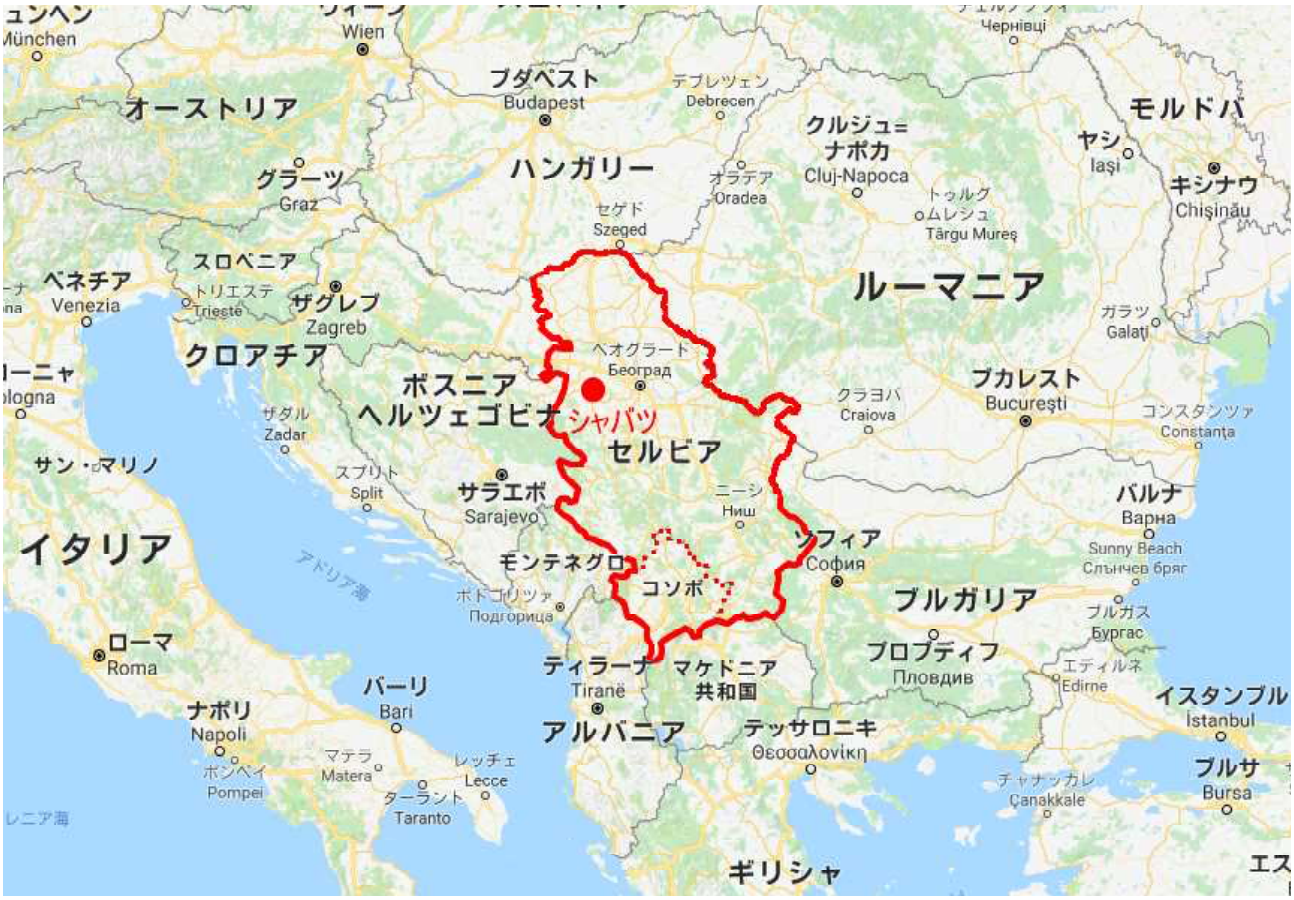
セルビアの民族衣装を着たふわっぴー

セルビア共和国国旗

シャバツ市の紋章

セルビアとシャバツ市

セルビア(Србија)共和国は、東南ヨーロッパのバルカン半島にある内陸国で、北海道ぐらいの面積です。戦前は「塞爾維」と書き、塞国と略しました。シャバツ(Шабац)市は、首都ベオグラードの西方にあり、人口約12万人です。市の北東部には、サバ川という大きな川が流れています。サバ川はベオグラードでドナウ川と合流しています。富士見市と東京の地理関係とよく似ています。



セルビア共和国とシャバツ市の位置（Googleマップによる）

＊日本政府はコソボを国家承認したが、セルビア政府は独立を認めていない

セルビアと日本 -意外な縁-

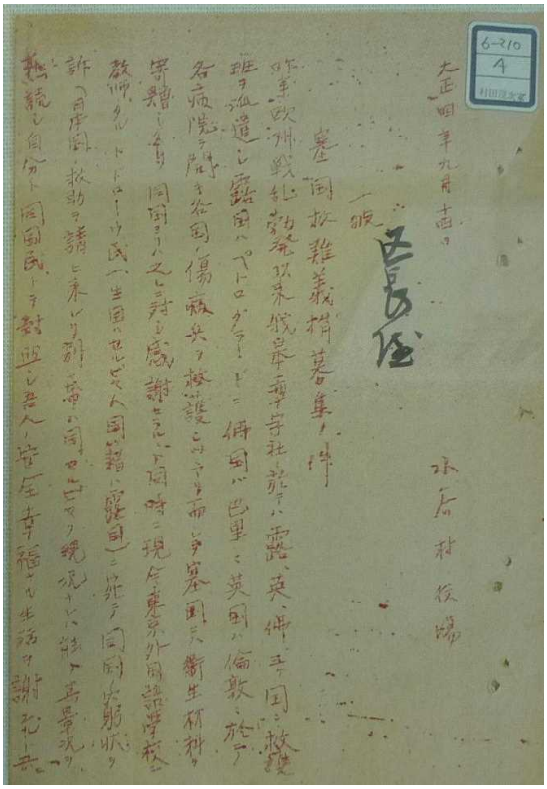
セルビアは、中世にオスマン帝国の支配下にありましたが、1878年に完全な独立をはたしました。1882年に王制に移行し、そのことを明治天皇に親書で伝えました。明治天皇からも同年中に返書しました。これが両国の国交のはじまりとされています。

国境も接せず、貿易関係も乏しい両国でしたが「日本の夏」とセルビアには深い関わりがあります。セルビア原産の花「ベララーダ」には、殺虫作用があるピレスロイドが含まれており、除虫菊とも呼ばれます。福沢諭吉の弟子である上山英一郎は、除虫菊の粉末を線香に練り込み、1890年に蚊取り線香を発明しました。その縁から現在も、大日本除虫菊(株)の社長がセルビア共和国名誉総領事に任命されています。

大正4年(1915)の義援金

当館に寄託された古文書の中に、今から100年以上前、セルビアに向けた義援金を集めた記録があります。時は1915年、水谷村の村長が各区長（現在の町会長）に出した文書です。

当時セルビアは、第一次世界大戦の渦中にあり大国オーストリアとの厳しい戦いに耐えていました。1912～13年のバルカン戦争に続く戦乱で、食料や医薬品すら乏しい状況に追い込まれていました。セルビア出身で東京外国語学校（現・東京外語大）のロシア語教師を務めていたドゥシャン・トドロヴィチは、母国のため募金活動を始めました。



日本赤十字社が窓口になり、全国から義援金を募りました。水谷村の動きもそれに応じたもので、富士見とセルビアの友好の原点といえます。

文書の内容

大正四年九月十四日

水谷村役場

区長殿

一般へ

塞国救難義捐（ぎえん）募集の件

昨年欧州戦乱勃発以来我日本赤十字社においては露、英、仏、三ヶ国に救護班を派遣し、露国はペトログラードに、仏国はパリに、英国はロンドンにおいて、各病院を開き各国の傷病兵を救護しつつあり。しかして塞国には衛生材料を寄贈したり。同国よりは之れに対し感謝せらるると同時に、現今東京外国語学校に教師たるトドローウ氏（生国はセルビヤ人、国籍は露国）に宛て、同国の窮状を訴え日本国の救助を請い来れり。別紙は同セルビヤの現況なれば、よくその景況を熟読し、自分と同国民とを対照し、吾人の安全幸福なる生活を謝すると共に、セルビヤ国民に対し応分の義金を為すことにおいて、やぶさかならざりし事を切望す

規定抜摘

一、義金は一口金十銭とす　但し一人幾口にてもよろし

二、出金は九月三十日までとす

三、取扱所は当村役場内とす

以上

別紙

（本文の要約）セルビヤは小さな国だが、悲惨な戦いを繰り返して独立を維持してきた。今回はオーストリアとドイツの大軍を相手に、武器弾薬も乏しい中、必死に戦っている。敵軍が侵入した地域では住民がひどい目にあい、死屍累々たるありさまである。国内には傷病者が充満しているが病院も医薬も欠乏している。食料も欠乏し全国民が飢餓に直面している。

付言

諸君は以上を見てその感、如何(いかん)。セルビヤ人も人類にして諸君と等しく最愛の子女もあり、最愛の婦妹もあり。憐なる老人もあらん。しかして今彼等は凶悪なる　墺(オーストリア)　独(ドイツ)軍と、その国のために生死の境に立て、進まんか死あるのみ、退かんか我が国を如何せん。闘うに弾丸なく、争うに刀なく、食するに糧(かて)なし。その国苦、酸鼻(さんび)の極みというべし。朝に不景気の嘆声をかこちて、夕に酒店の簾をくぐり、農家日常の衣装に、憚(はばか)らず粉脂を塗り紅裙(こうくん)を装い野阜(のづかさ)の舞楽を弄(ろう)するの徒は、よろしく朝夜(ちょうや)業を励み、余利を計画して相当の義金を出し、この勇猛なる国民を救助せられんこと、切に余の望むところなり。

《 水谷村長 》

以上

富士見市とシャバツ市

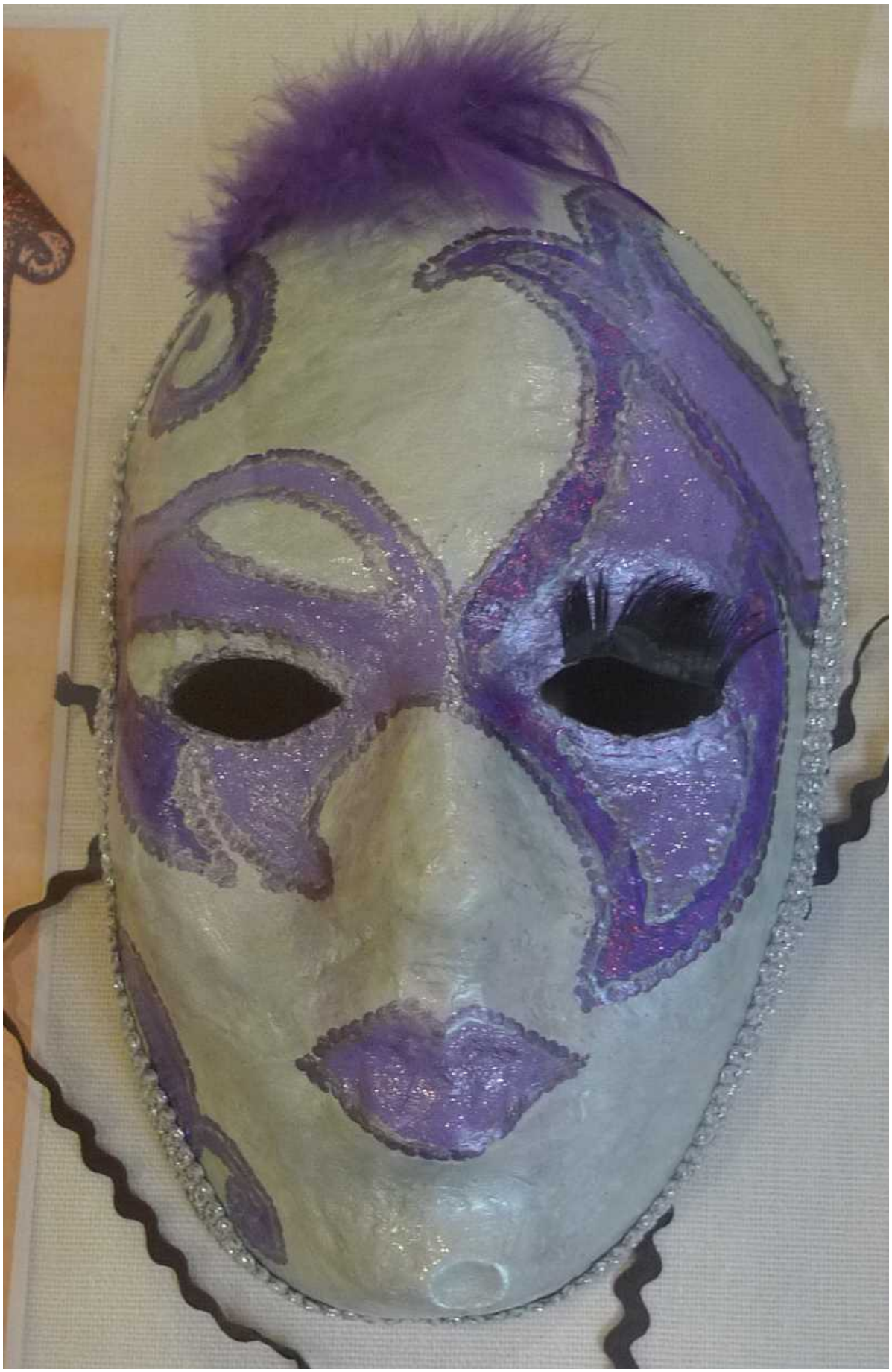
富士見市とシャバツ市は、1982年から姉妹都市提携をしています。この年は富士見市制十周年であり、日セ国交百周年にもあたります。

これまで、富士見市からシャバツ市へ6回の市民訪問団が派遣されました。

2010年にはシャバツ市民訪問団が富士見市を訪れました。また、シャバツ市が属するユーゴスラビア(2003年まで)またはセルビア共和国の大使も、幾度か富士見市を訪れています。

現在も、日本の都市で、セルビアの都市と提携関係にあるのは富士見市だけです。

第6次富士見市民シャバツ訪問団（2012年）



シャバツ市からいただいた仮面

平和及び諸国民の協力が、全ての国民の一層の進歩の基礎であるとの認識に立ち又 日本国富士見市及びユーゴースラヴィア社会主義連邦共和国シャバッツ市両市民の率直な願いを踏まえ、富士見市及びシャバッツ市議会双方の決定に基づき、山田三郎富士見市長及びノバック・クルーキッチ・シャバッツ市議会議長は、下記の宣言に署名する。

富士見市・シャバッツ市姉妹都市宣言

経済、教育、文化、スポーツ及びその他の分野における両市の協力が双方の利益となり、両市の親交を深め両国の親善関係及び世界平和の強化に寄与するものと確信し、両姉妹都市代表は、本宣言の署名により、両市間協力の促進、発展及び社会政治体制に関する経験の交換に最大限の努力を払うことをここに宣言する。

シャバッツにて　　1982年10月23日

シャバッツ市議会議長

富士見市長
山田三郎

Полазећи од сазнања да су мир и сарадња међу народима основа свког даљег прогреса, а изражавајући искривену жељу и обострани интерес грађана два града, Фуџими у Јапану и Шапац у СФРЈ, градоначелник града Фуџими, господин Сабуро Јамада и председник Скупштине Општине Шабац, друг Новак Лукић, на основу одлука града Фуџими и Скупштине Општине Шабац, потписују ову

ПОВЕЉУ

О БРАТИМЉЕЊУ ГРАДОВА ФУЏИМИ И ШАБАЦ

Потписујући ову повељу, представници збратимљених градова се свечано обавезују да ће се максимално ангажовати на подстицању развијању и унапређивању сарадње између збратимљених градова у области привреде, образовања, културе, спорта и у другим областима људског стваралаштва, као и на разменама искустава о друштвено-политичком систему, у чврстом уверењу да ће таква сарадња имати обостране користи и да ће значајно допринети зближавању грађана два града и даљем продубљивању и учвршћивању пријатељских односа између наших двеју земаља и мира у свету.

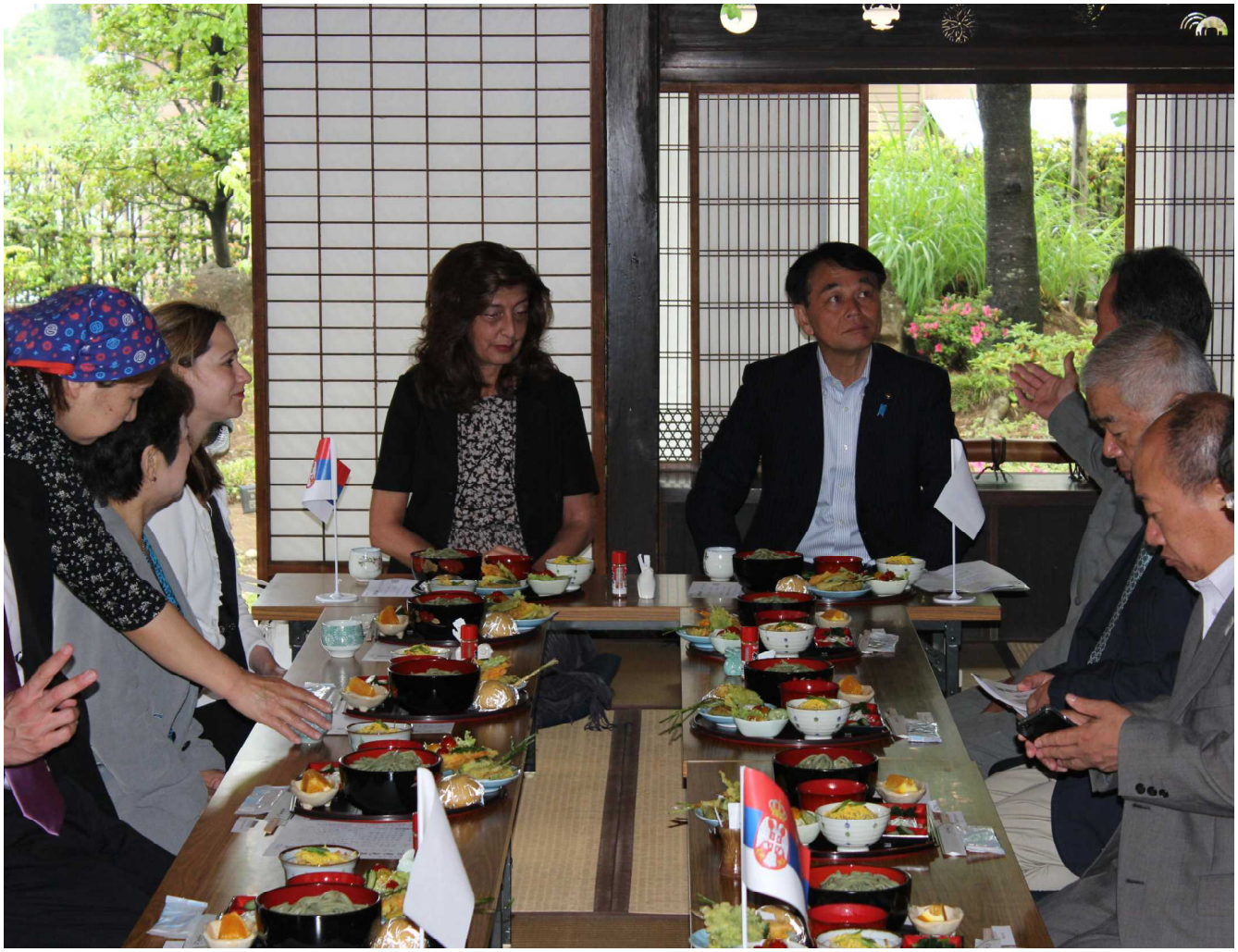
У Шапцу, 23. октобра 1982. год.

Председник Скупштине Општине Шабац
Новак Лукић

Градоначелник града Фуџими
Сабуро Јамада
山田三郎

2010年シャバツ市訪日団来館

2013年セルビア大使が来館



セルビアと日本を結ぶ義援金

1990年代、ユーゴスラビア連邦が解体する過程で、多くの内戦が起こりました。相次ぐ戦乱で疲弊したセルビア共和国の復興に、日本は率先して支援の手をさしのべました。

2011年、東日本大震災による甚大な被害に対し、セルビアの人々はいちはやく支援に動き、総額約3億円の義援金を送ってくださいました。当時の同国の経済規模は日本の約百分の一で、破格の厚情が示されました。

2014年5月、セルビアとその隣国ボスニア・ヘルツェゴビナを、100年に一度といわれる大洪水が襲いました。それを知った日本の人々は、インターネットを活用して支援の輪を拡げました。同年の難波田城公園まつりでも、募金活動に取組みました。

＜参考文献＞

セルビア共和国大使館 2011『セルビアと日本両国関係史概観』
柴宜弘，山崎信一 編著 2015『セルビアを知るための60章』
柴宜弘 2017「ロシア語教師ドゥシャン・トドロヴィチと第一次世界大戦」『中欧研究』第3号
富士見市公式サイト
シャバツ市公式サイト
外務省公式サイト

下記の皆様よりご協力をいただきました。感謝申し上げます。
水谷村義捐金文書(p5)は故村田茂次氏から当館に寄託された。
シャバツ市民訪問団写真(p8)は人権・市民相談課から提供を受けた。
シャバツ市記念品仮面(p9)は人権・市民相談課から借用した。
姉妹都市宣言書(p10-11)は秘書広報課から借用した。
2018年セルビア大使来訪写真(裏表紙)は秘書広報課から提供を受けた。

その他の写真は当館が撮影したものである。

2018年6月3日「難波田城公園まつり」火縄銃演武
セルビア共和国大使が甲冑を着用して参加

市民学芸員(資料館ボランティア)と記念写真